



2024
No.402 9 月号

News

全国整備工場の皆様へ
NGP組合員200拠点がお届けする
お役立ち情報

2024年9月19日発行
■発行責任者/佐藤幸雄 ■編集・制作/(株)プロトリオス
■発行/(株)NGP 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F TEL03(6705)1212

本格運用の開始迫る

OBD検査、10月からスタート

10月1日から、いよいよOBD検査の本格運用が開始されます。

OBD検査の対象となる車両は、国産車で2021年10月1日以降の新型車（フルモデルチェンジ車）、輸入車は2022年10月1日以降の新型車（フルモデルチェンジ車）です。国土交通省が開催するOBD検査準備会合（準備会合）によると、6月末時点で登録車で1,801,603台、軽自動車791,038台がOBD検査対象となります。

OBD検査は従来の車検整備作業と異なる手順や設備機器が必要となるため、その準備期間として2023年10月1日からプレ運用を実施してきました。一方、全国の指定工場における準備状況は、準備会合が目標とした数値に届いていません（表1）。

OBD検査を間近に控え、改めてOBD検査を実施するために必要な準備の内容と検査の流れについて解説します。

■OBD検査の準備

OBD検査を実施するためには、OBD検査システム（特定DTC照会アプリ、利用者管理システム、OBD検査結果参照システム）を利用できる環境を構築する必要があります。その主な手順は次のとおりです。

1. 事業場IDの申請

OBD検査システムを利用するための利用申請（事業場ID申請）を行います。申請には指定工場の場合は指定書の写し、認証工場の場合は認証書の写しが必要となります。申請は、利用者管理システムのログイン画面から可能です。

2. クライアント証明書のインストール

OBD検査システムを利用するためには、1つのWindowsアカウント（同じアカウ

ントで異なる端末を使用する場合には端末ごと）につき、1つのOBD検査システム専用のクライアント証明書をインストールする必要があります。クライアント証明書のインストールには、事業場IDの登録完了時に送信されるクライアント証明書招待コードに関するメールに記載されている情報が必要となります。

3. 利用者登録

利用者管理システムにログインし、工具や検査員などの利用者を登録します。登録時に発行されるユーザーIDと初期パスワードは、利用者が特定DTC照会アプリ及びOBD検査結果参照システムにログインをする時に使用します。

4. 特定DTC照会アプリのダウンロード及び検査用スキャンツールへのインストール

利用者管理システムから特定DTC照会アプリをダウンロードした後、メールやUSBメモリなどで検査用スキャンツールの端末（PCまたはタブレット）へ展開し、インストールします。

■OBD検査の実施

1. 特定DTC照会アプリで車両受付

特定DTC照会アプリにログインし、車両の情報を入力します。なお情報の入力は、車検証の二次元コードの読み取り、電子車検証のICタグの読み取り、読み取り機器を使用せずに手入力、のいずれかの方法で行います。

2. OBD検査要否の確認

車両の情報の入力が完了した後、特定DTC照会アプリでOBD検査が必要かどうかを確認します。OBD検査の対象となる車両の車検証には、「OBD検査対象車」な

どの記載がありますが、それらの表示がある場合でも、法令等で定められた条件により、OBD検査を実施しなくても良い場合があります。

3. OBD検査の実施

OBD検査要否の確認において、OBD検査が必要だった場合、OBD検査を実施します。車両のデータリンクコネクタに検査用スキャンツールの接続端子を接続し、車両のエンジンをON（HV等はREADY）にして、特定DTC照会アプリの「OBD検査モード」画面で、「実行」を押します。

4. 検査結果の確認

検査結果と表示されるメッセージを確認し、メッセージに従って操作を行います。

OBD検査の準備及び検査手順等の詳細は、OBD検査ポータル（<https://www.obd.naltec.go.jp/>）で紹介されています。車検対応が必須となる指定工場だけではなく、認証工場においても制度に対する理解は必要です。今一度、検査の内容や自社における運用手順などを確認し、本格運用に備えたいところです。

表1 指定整備工場の準備状況に関する3指標の目標値及び実績

| 指標 | ID登録完了率 | 初回ログイン完了率 | 初回アプリ使用率 |
|-----|--------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|
| 内容 | 機構OBD検査システムのID登録を完了した指定整備工場の割合 | 機構OBD検査システムに初回ログインを完了した指定整備工場の割合 | 実際の車両を用いて特定DTC照会アプリの使用を開始した指定整備工場の割合 |
| 目標値 | 2024年6月末 100% | 2024年6月末 90% | 2024年6月末 70% |
| 実績値 | 7月22日時点 94% | 7月22日時点 88% | 7月22日時点 42% |

出典：第7回OBD検査準備会合

新車販売台数の低迷で、 使用済み自動車の引き取り台数及び 自動車リサイクル事業者の売り上げも停滞

日本自動車リサイクル部品協議会（佐藤幸雄代表理事）は7月、自動車リサイクル市場に関するアンケート調査の結果を発表しました。

同協議会は自動車リサイクル部品流通団体による組織で、NGP協同組合も加盟しています。今回発表したアンケート調査結果は、同協議会の会員団体に所属する自動車リサイクル事業者に対して実施したもので、2023年年間（1～12月）のリサイクル部品販売実績などについて242社から回答を得ています。

その結果、2023年における全回答社合計のリサイクル部品売り上げ金額は79,471,616千円（うち国内：59,096,017千円、輸出：20,347,935千円）、素材（鉄、非鉄、プラスチックなど）売り上げ金額は33,968,631千円、インターネットを利用した売り上げ金額は6,063,312千円、使用済み自動車の入庫台数は819,710でした（表1）。

前年調査と回答社が異なるため単純な比較はできませんが、参考として1社当たりの平均値で比較すると、リサイクル部品の売り上げ金額は前年比9.3%減となる328,395千円、そのうち国内販売は244,198千円（同10.0%減）、輸出版売は84,082千円（同3.5%増）、素材売り上げ金額は140,366千円（同13.2%減）、インターネット販売は25,055千円（同2.4%増）、使用済み自動車の入庫台数は3,387台（同0.3%減）でした。

新型コロナウイルスの感染拡大による部品供給の停滞に端を発した新車の長納期化により新車販売台数の回復が鈍く（グラフ1）、それに伴い使用済み自動車の引き取り件数（グラフ2）も低水準で推移したことが、自動車リサイクル事業者の部品売り上げに反映されています。一方で、1社当たりの平均では輸出版売の売り上げ金額が増加していました。近年における円安傾向を受けて、輸出版売の売り上げを伸ばしている事業者が一定数いることが推察されます。

また、インターネット販売も同様に1社

当たりの平均売り上げ金額が増加しています。NGPも、幅広いお客様への販売機会の創出を目指して、オンラインショッピングモール「Yahoo!ショッピング店」などで、

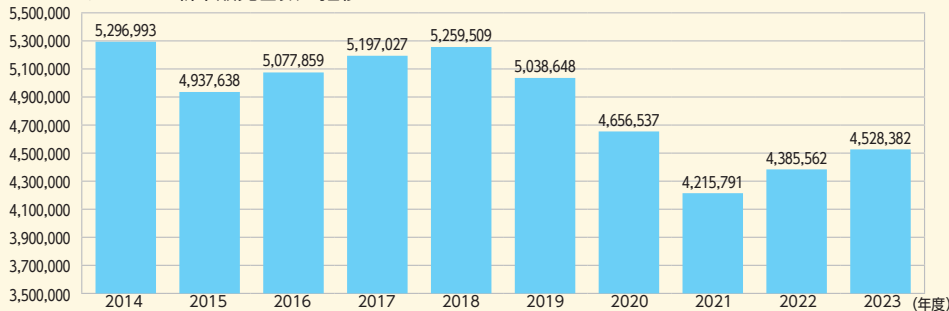
リサイクルパーツを販売しています。リサイクル各事業者がインターネット販売への対応を進めたことが、販売金額につながったと考えられます。

表1 自動車リサイクル部品業界市場規模アンケート調査（2023年1月～12月）

| | リサイクル部品（リユース・リビルド） | | | 使用済み自動車 入庫台数 |
|-------------|--------------------|------------|------------|-----------------|
| | 国内売り上げ金額 | 輸出売り上げ金額 | 部品総売り上げ金額 | |
| 242社合計 | 59,096,017 | 20,347,935 | 79,471,616 | 819,710 |
| 1社当たり | 244,198 | 84,082 | 328,395 | 3,387 |
| 前年対比（1社当たり） | 90.0% | 103.5% | 90.7% | 99.7% |

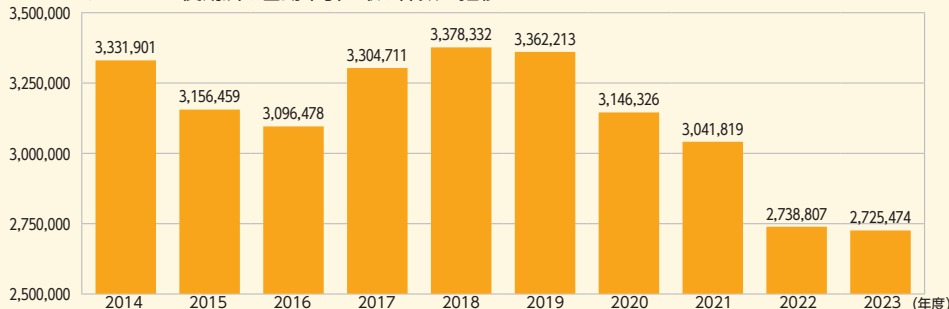
| | 素材関係（鉄+非鉄、プラ） 売り上げ金額 | 部品+素材 売り上げ金額 | インターネット 売り上げ金額 | 使用済み自動車 入庫台数 |
|-------------|-------------------------|-----------------|-------------------|-----------------|
| 242社合計 | 33,968,631 | 108,971,121 | 6,063,312 | 819,710 |
| 1社当たり | 140,366 | 450,294 | 25,055 | 3,387 |
| 前年対比（1社当たり） | 86.8% | 86.0% | 102.4% | 99.7% |

グラフ1 新車販売台数の推移



出典：一般社団法人日本自動車販売協会連合会「自動車統計データブック」/一般社団法人日本自動車販売協会連合会Webサイト

グラフ2 使用済み自動車引き取り件数の推移



出典：公益財団法人自動車リサイクル促進センター Webサイト（2014～2015年度＝「使用済み自動車の再資源化等に関する法律（平成14年法律第87号）第116条に基づく、経済産業大臣及び環境大臣への報告事項」、2016年度～2023年度＝「都道府県別引取（電子マニフェスト）実施状況」）

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和6年7月：**2,012t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品をきむと115品目）を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和6年7月：**0.7t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

機工協、2023年度自動車機械工具販売実績を発表

継続検査台数の増加傾向を受けて 機械工具販売実績総計が 1996年以來となる1,300億円超を記録

日本自動車機械工具協会（機工協、柳田昌宏会長）はこのほど、2023年度自動車機械工具販売実績の集計結果を発表しました。

それによると、2023年4月～2024年3月の販売実績は1,361億966万7千円と、前年度（1,211億9,495万8千円）と比べて149億1,470万9千円（12.3%）増加していました。1,000億円超えは11年連続、1,300億円超えは1996年以來、コロナ禍前の2019年度との比較では、249億3,860万8千円（22.4%）の増加となります。

商品カテゴリー別では、19項目のうち14項目が前年度実績を上回っています。統計金額に占める割合（構成比）が大きい上位5項目は、いずれも前年度実績を上回っており、そのうちリフト・ジャッキ・プレス（8.3%増）、車検機器（8.7%増）、洗車洗浄装置（5.0%増）の3項目は2008年のリーマン・ショック以降最高金額を記録しました。

リフト・ジャッキ・プレスでは、工事費用や故障時の修理性の観点から、近年パンタグラフ型リフトの需要が拡大しています。2023年度も前年度との比較でパンタグラフ型リフトが販売数量11.6%増・販売金額16.0%増、パンタグラフ型2段リフトが同18.3%増・4.7%増と好調を維持していました。

車検機器では、小型・普通車用コンピューター車検システムの販売金額が前年度比5.1%減、大型車用同システムが同49.1%減となり、コンプライアンス強化や効率化、省力化を目的としたシステム化の流れが一段落したと推察されます。一方、ブレーキ・速度計複合試験器（軸重4,000kg以下）が同17.6%増、ヘッドライトテスター（スクリーン式・画像式）が同35.6%増と堅調に推移しました。

洗車洗浄装置では、門型洗車機（小型・普通車用）の販売金額が前年度から5.4%減少しており、ディーラーの統廃合などを受けて需要が停滞したと見られます。一方、自動下部洗浄装置は小型・普通車用で同11.3%増、大型車用で同79.9%増と好調でした。大型車用は門型洗車機も同57.9

%増と堅調で、ES向上や作業効率化を目的とした導入が進んだと考えられます。

車体修理分野を見ると、車体整備機器が対前年度比9.9%増の16億5,580万9千円、塗装機器が同25.2%増の18億3,247万4千円と、ともに前年実績を上回りました。

車体整備機器では、ボデー修正装置の「ベンチタイプ」が前年度比5.4%減の2億4,162万9千円、「フロアタイプ」が同49.2%減の3,757万1千円となり、大破の入庫が減少している業界動向を反映した結果となりました。一方、スポット溶接機は同78.3%増の2億1,206万9千円と好調に推移しており、その一因には輸入車メーカーの認定機器に対する需要などがあ

たと推察されます。

塗装機器では、塗装ブースが前年度比12.9%増の10億9,550万4千円、赤外線乾燥装置が同42.8%増の1億6,094万5千円と好調で、老朽化による代替のほか水性塗料対応も需要を押し上げたようです。

コロナ禍前と比較して新車販売台数はいまだに低い水準にあるものの、車両保有台数は高い水準を維持しており、新車の長納期化の影響などにより継続検査台数は増加傾向にあります。その結果、整備需要が安定的に推移したため、整備事業者の設備投資意欲が高まったことが、機械工具の販売実績につながったと考えられます。

グラフ1 2023年度自動車機械工具売上構成比

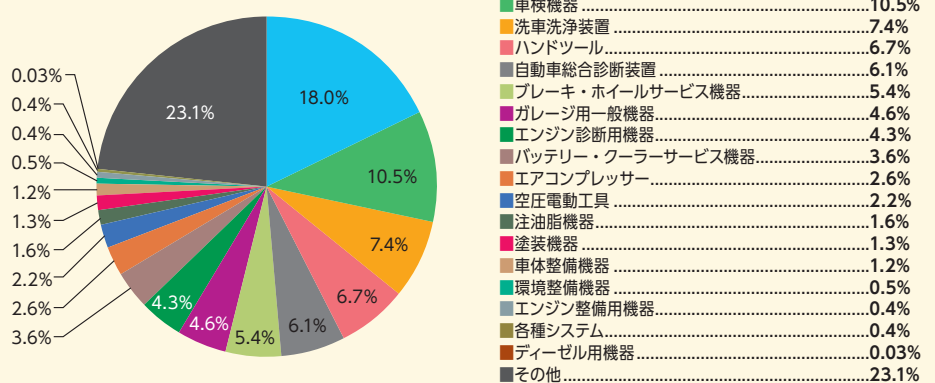


表1 2023年度自動車機械工具販売実績

| 項目 | 国内販売金額(千円) | 輸出販売金額(千円) | 輸入販売金額(千円) | 合計金額(千円) | 対前年度比(%) |
|------------------|-------------|------------|------------|-------------|----------|
| 自動車総合診断装置 | 6,729,276 | 1,628,223 | 0 | 8,357,499 | 123.0 |
| 車検機器 | 14,164,308 | 84,828 | 1,753 | 14,250,889 | 108.7 |
| 洗車洗浄装置 | 9,892,368 | 6,402 | 125,546 | 10,024,316 | 105.0 |
| リフト・ジャッキ・プレス | 24,099,034 | 142,731 | 191,395 | 24,433,160 | 108.3 |
| (車載用) | 0 | 0 | 0 | 0 | - |
| エアコンプレッサー | 3,475,146 | 6,654 | 9,720 | 3,491,520 | 110.4 |
| 空圧電動工具 | 3,007,997 | 6,821 | 25,179 | 3,039,997 | 88.6 |
| ハンドツール | 8,826,570 | 307,003 | 11,693 | 9,145,266 | 107.0 |
| (車載用) | 26,383 | 0 | 0 | 26,383 | 59.5 |
| 車体整備機器 | 1,401,757 | 196 | 253,856 | 1,655,809 | 109.9 |
| 塗装機器 | 1,820,615 | 0 | 11,859 | 1,832,474 | 125.2 |
| バッテリー・クーラーサービス機器 | 4,390,723 | 16,271 | 498,033 | 4,905,027 | 105.0 |
| エンジン診断用機器 | 5,685,740 | 34,505 | 196,153 | 5,916,398 | 167.2 |
| エンジン整備用機器 | 442,845 | 45,171 | 32,947 | 520,963 | 91.5 |
| ディーゼル用機器 | 29,021 | 16,992 | 0 | 46,013 | 66.3 |
| ブレーキ・ホイールサービス機器 | 5,429,991 | 9,486 | 1,939,076 | 7,378,553 | 99.7 |
| (車載用) | 40,108 | 0 | 0 | 40,108 | 103.3 |
| ガレージ用一般機器 | 6,012,223 | 16,941 | 177,126 | 6,206,290 | 105.2 |
| 注油脂機器 | 2,199,901 | 5,793 | 16,758 | 2,222,452 | 109.4 |
| 各種システム | 524,317 | 0 | 0 | 524,317 | 101.1 |
| 環境整備機器 | 569,792 | 0 | 148,002 | 717,794 | 87.3 |
| その他 | 31,048,159 | 346,777 | 45,994 | 31,440,930 | 123.1 |
| 総合計 | 129,749,783 | 2,674,794 | 3,685,090 | 136,109,667 | 112.3 |
| (車載用合計) | 66,491 | 0 | 0 | 66,491 | 79.9 |

NGP組合員 かわら版

(株)オートパーツ幸城、経済学を学ぶ大学生の工場見学を受け入れ 自動車リサイクル制度の仕組みや業界の取り組みを紹介

NGP協同組合に加盟する(株)オートパーツ幸城(四之宮英一社長、本社=山口県宇部市)は7月5日、自動車リサイクル促進センター(細田衛土理事長、JARC)が主催する「自動車リサイクル現場見学会」に協力し、山口大学で経済学を学ぶ学生による工場見学を受け入れました。

JARCの「自動車リサイクル現場見学会」は、若年層の自動車リサイクルに関する認知の拡大及び関心の喚起などを目的として、自動車リサイクルの現場を見学する機会を提供する取り組みです。工場見学会には学生33人、教員1人が参加し、自動車リサイクルシステムの概要や工場における使用済み自動車の適正処理の流れなどについて説明を受けた後、実際の作業現場を見学しました。

自動車リサイクル法について説明を受

けた学生からは、その自動車リサイクル率の高さに対する驚きの声などが上がりました。また、自動車リサイクル部品の存在を初めて認識したという学生は、「リサイクル部品を利用すれば、自分自身もリサイクルに協力することができることを知りました」と、見学を通じて自動車リサイクルに対する関心を高めていました。

四之宮社長は「座学では、自動車リサイクル法制定のきっかけとなった豊島事件についても触れ、その中でNGPのSDGsの活動や社会貢献などについても紹介しました。また、工場見学では安全対策の取り組みや周辺環境への配慮、倉庫や工場内の整理整頓の徹底などを見てもらうことで、“自動車解体業のイメージ”をアップデートしていただくことに重点を置きました。今後も幅広い層に自動車リサイクル業界とリサイクル部品を

知ってもらうため、啓蒙活動に取り組んでいきたいと考えています」と、工場見学を受け入れた理由を説明しています。



第3回スキャンツールセミナーを開催

スキャンツールの活用で、自動車技術の進化に対応したリサイクルパーツの生産につなげる

NGP協同組合は7月9・10日の2日間、(株)あいおいニッセイ同和自動車研究所・東富士センター(静岡県裾野市)でスキャンツールセミナーを開催しました。

整備業界においてスキャンツールの重要性が増していることを受けて、NGPは自動車リサイクル業界の中でいち早く、2015年に全組合員へスキャンツールを無償配布しています。また今年に入り、新型車への対応を目的として、改めて新型スキャンツールを全組合員に無償で配布しました。全組合員がバッテリーをはじめとした各種パーツの状態確認にスキャンツールを活用することで、リサイク

ルパーツの品質向上につなげており、今回のスキャンツールセミナーは組合員企業のスタッフがその活用方法を学ぶことを目的としたものです。

講習ではまず座学でDTCの読み取り・消去やフリーズフレームデータ表示、データモニター、アクティブ操作、作業サポートなどのスキャンツールの機能について説明を受けました。その後、NGPが組合員各社に配布したスキャンツールであるバンザイ・MST-7Rを実車に接続し、各種機能を確認するとともに、エンジン系統、エアコン系統、ドアロック系統の不具合に対する故障診断を実施しました。

2日間のセミナーを終えて、(株)共伸商会の村山健さんは「今回の研修で得た知識を使い、修理を行うことにより、車の価値を高めることができます。スキャンツールを普段の業務から積極的に使用して、スキルの向上を目指していきます」と、スキャンツールを商品価値の向上に活用していく姿勢を示しています。



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>